



BroadBand Tower, Inc.

**株式会社ブロードバンドタワー
2011年6月期 決算説明会資料**

<http://www.bbtower.co.jp/>

東日本大震災の影響

◆コンピュータプラットフォーム事業

データセンターサービスの運用に影響はなく、安定稼働を続ける。
しかしながら、新年度（平成24年6月期）においては、原燃料価格の高騰による電気代値上げを想定。

◆Eコマースプラットフォーム事業

EC事業では物流への影響があるも軽微に留まる。
TV事業では、当社が販売を予定していたTVショッピング専門チャンネル（QVC）が数日間放映されない状態が続き、その期間に計画をしていた販売（2.7億円）ができず。
しかしながら、4月以降は通常営業へ戻る。



決算(連結)業績

(単位:百万円)	2010/6期	2011/6期	前期比	トピックス
売上高	12,812	14,465	12.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・連結子会社BBFが行うEC/TV事業が好調に推移。 ・EC事業の構築ブランド数は314ブランドへ。 ・TV事業は、3月単月において大震災の影響を受けるも、4月以降は回復し、通年では好調に推移。 ・TV事業は、昨年7月より海外(台湾)で販売開始、6月末で月額50百万円を超える。
売上原価	10,781	12,327	14.3%	
売上総利益	2,031	2,137	5.2%	
営業利益	739	790	6.9%	
経常利益	704	779	10.8%	
当期純利益	292	314	7.3%	
1株利益	3,134.28	3,428.69	—	
1株配当金	—	500	—	



決算(個別)業績

(単位:百万円)	2010/6期	2011/6期	前期比	トピックス
売上高	8,603	8,519	▲1.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・コロケーションサービス、販売価格下落および顧客都合による解約が発生。 ・東日本大震災・電力不足の影響により、関西地域のデータセンターへのサーバ・データの移設や関西のデータセンターを使ったDR構築の動きが発生。当社の西梅田サイトにも多数の引き合い。 ・プロダクト販売、IT投資抑制の影響及び競合他社品との価格競争により減少 ・特別損失として、資産除去債務の会計基準適用に伴い、202百万円を計上。投資有価証券評価損108百万円計上、固定資産の除却損99百万円を計上。
売上原価	7,176	7,048	▲1.8%	
売上総利益	1,426	1,471	3.1%	
営業利益	507	513	1.3%	
経常利益	471	500	6.2%	
当期純利益	214	218	2.0%	
1株利益	2,291.20	2,381.48	—	
1株配当金	—	500	—	



要約貸借対照表（連結）

	10年6月期		11年6月期		
	(10. 06. 30)	(11. 06. 30)	(10. 06. 30)	(11. 06. 30)	
流動資産合計	5,318	4,989	流動負債合計	1,670	1,933
現金及び預金	3,277	① 3,049	買掛金	759	1,000
売掛金	1,610	1,376	1年内長期借入金	405	405
商品及び製品	122	199	未払法人税	201	206
繰延税金資産	104	163	その他	304	322
その他	205	203	固定負債合計	817	993
貸倒引当金	△3	△2	長期借入金	810	② 405
固定資産合計	3,023	3,337	その他	7	③ 588
有形固定資産	1,816	1,961	負債合計	2,488	2,927
無形固定資産	90	56	株主資本合計	5,651	④ 5,127
投資その他の資産	1,116	1,319	その他包括利益累計額	△8	△6
			新株予約権	9	9
			少数株主持分	201	269
			純資産合計	5,853	5,399
資産合計	8,341	8,327	負債純資産合計	8,341	8,327

- ①自己株式取得による現金・預金の減少 ②長期借入金返済
 ③資産除去債務の計上 ④自己株式取得による減少

要約キャッシュ・フロー（連結）

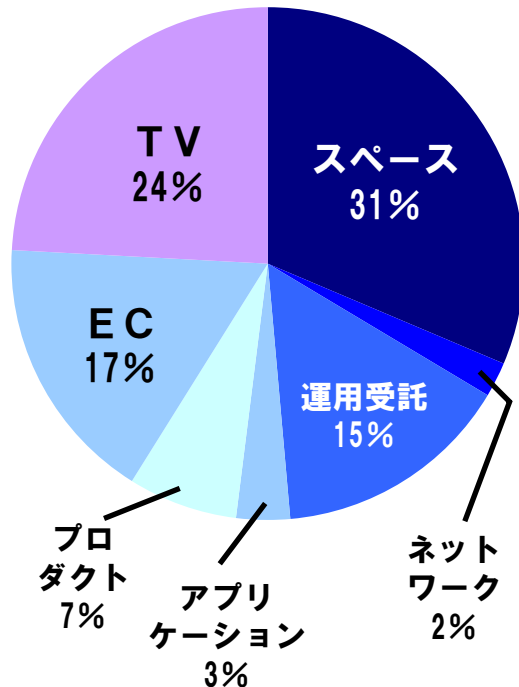
	2010/6期		2011/6期	
	(単位:百万円)			
営業活動CF		995		1,324
投資活動CF		△341		△282
財務活動CF		△827		△1,271
現金及び現金同等物の期末残高		3,277		3,049

【キャッシュ・フロー内訳】

- 営業活動によるキャッシュ・フロー
 - 税金等調整前当期純利益 371百万円
 - 減価償却費 370百万円
 - 資産除去債務の影響額 202百万円
 - 仕入債務の増加 241百万円
 - 売上債権の減少 294百万円
 - 法人税等の支払額 △308百万円
- 投資活動によるキャッシュ・フロー
 - 有形固定資産の取得 △159百万円
 - 投資有価証券の取得 △113百万円
- 財務活動によるキャッシュ・フロー
 - 長期借入金の返済 △405百万円
 - 自己株式の取得 △879百万円

(参 考) 当社グループのサービス別セグメント

サービス別セグメント
売上高構成比
(2011/6期)



サービス別セグメント	特 徴	収益形態
コロケーションサービス	「場所貸し」と言われるサービスで、サーバスペースを1ラック●万円という形で、24時間365日稼働の運用環境を提供。	ストック収益
ネットワークサービス	高速で高品質な通信が可能。DoS/DDoSなど外部からの見えない攻撃をネットワークで自動検知/防御を行う。	ストック収益
運用受託	お客様が建てたデータセンターを当社が運用。	ストック収益
アプリケーションプラットフォームサービス	場所貸しだけでなく、お客様のサーバ選定や広帯域なネットワーク接続環境を提供。仮想化技術にも対応し、低価格でのマネージドホスティングサービスを実現。コンサルティングも開始。	ストック収益
プロダクト	ストレージ (Isilon) の販売。 (EMCより輸入し販売)	フロー収益
ECシステム構築支援・運用サービス	高級ファッションブランドのECサイト構築・運用を手掛ける。成長が加速するEC市場にて、独自ECサイトでの販売を希望するブランドを支援。	ストック収益
TVショッピング支援事業	ファッション関連テレビショッピングの番組企画およびテレビショッピング事業者の販売商品企画、仕入、在庫管理などの販売支援。	フロー収益

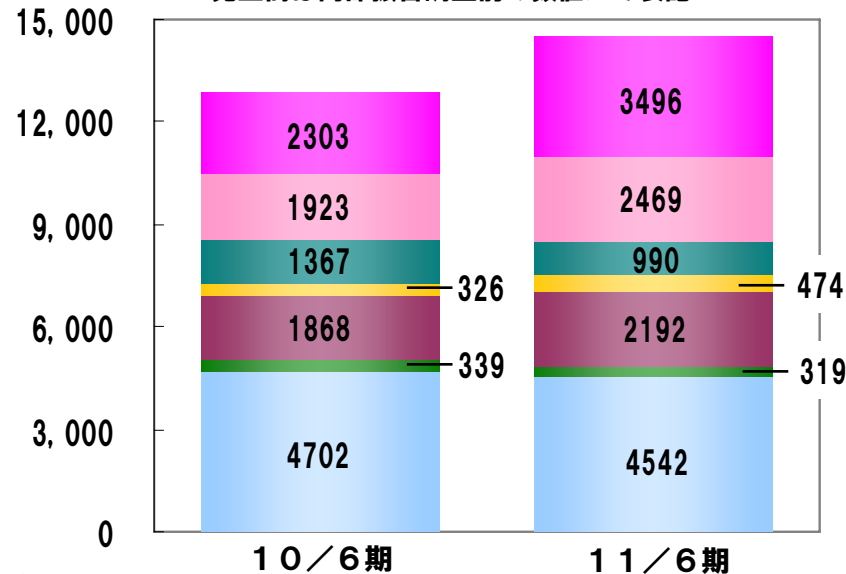
ストック収益：毎月一定の固定収入を見込むことができる安定的な収益形態

フロー収益：売り切り型を特徴とする流動的な収益形態

サービス別売上高の増減要因（各売上は内部調整振替前）

2010/6期 売上高計 12,829百万円 **+13%** 2011/6期 売上高計 14,485百万円

※売上高は内部振替調整前の数値にて表記



(単位:百万円)

- Iコマース事業
- Eコマース事業
- プロダクト
- アプリケーションプラットフォーム
- 運用受託
- ネットワーク
- コロケーション

《コロケーション》

販売価格下落および顧客都合による解約が発生

《アプリケーションプラットフォーム》

クラウドサービス「Flex-IaaS」の開始およびコンサルサービス等の高付加価値サービスに注力

《運用受託》

拡張工事受注(279百万円)により増加、安定的な運用へ

《プロダクト》

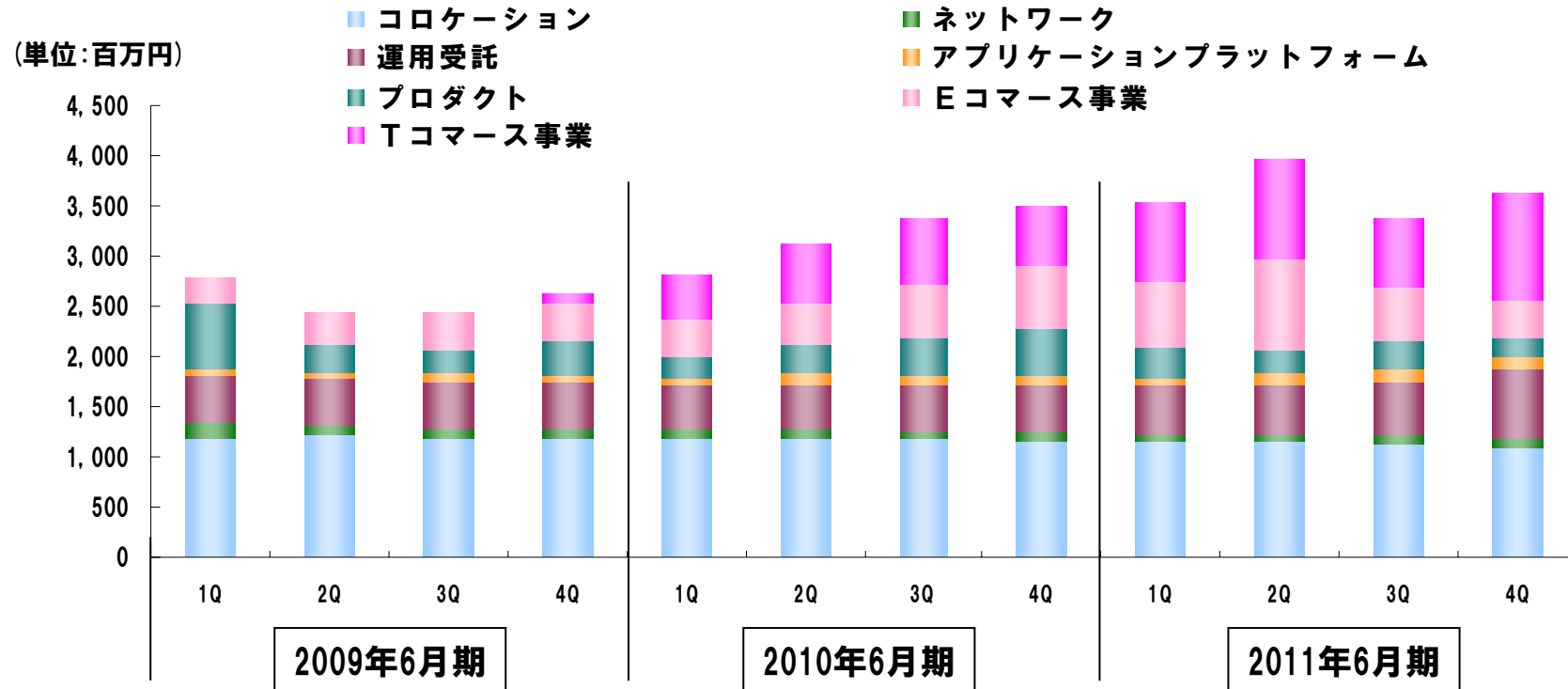
IT投資抑制の影響及び競合品との価格競争により減少

《Eコマースプラットフォーム》

EC: 10/6末 280ブランド ⇒ 11/6末 314ブランド
既存運用サイトの売上向上

TV: 放送番組枠の増加(タレントを使った番組等)
台湾での販売は月額50百万円を超える

サービス別売上高四半期推移



コロケーション : 主力サービスであるが、販売価格の低下や顧客都合による解約により減少傾向

E C / T C 事業 : 当社グループを牽引する成長ドライバーとなり今後も拡大傾向



配当金について

創業後10年を迎えたことを踏まえ、内部留保の充実を図るとともに、継続的かつ安定的な配当による株主還元を行いバランスの取れた経営戦略を取る必要があることが重要であると認識。

平成21年6月期第2四半期に減損処理を行い、懸案でありました西梅田サイトについても、来期以降の稼働率向上に一定の目処がつく。



**当初無配であった平成23年6月期の期末の配当予想を
1株当たり500円に修正**



2012年BBTower 戰略

新体制について（第12回株主総会后）

以下の理由を以って、代表取締役社長の異動を行う。

- ①主要株主（IRI）の親会社異動に伴う大企業的管理から成長企業型管理への転換
- ②個別業績の不振
- ③子会社とのシナジー追及が不徹底



後任の**新代表取締役社長**には、**モバイルインターネットサービス**
およびインターネット動画サービスを世に創出した
小林仁幸が就任



新体制について（第12回株主総会后）

代表取締役会長CEO	藤原	洋	※株主的視点での企業価値創造の責任
(新任) 代表取締役社長COO	小林	仁幸	
(新任) 取締役執行役員CFO	吉田	敦男	
取締役執行役員CTO	西野	大	
取締役	大和田	廣樹	
取締役	土田	圭滋 (社外)	
(新任) 取締役	村井	純 (社外)	

< 新社長 小林仁幸の略歴 >

昭和60年10月	株式会社アレフ 入社 エリアマネージャー
平成 3年10月	株式会社ディアイティ入社
平成 7年 8月	リムネット株式会社入社 運用管理部長
平成 8年 4月	日本ヒューレット・パッド 入社
平成11年 5月	株式会社ザイオン設立 代表取締役就任
平成19年 5月	同社 代表取締役退任 最高顧問就任
平成19年 5月	株式会社XENLON (シェンロン) 代表取締役就任
平成23年 7月	当社 入社 執行役員就任 (現)

通期決算見通し

【連 結】	第2四半期			通 期			(単位:百万円)
	2011/6期	2012/6期	前期比	2011/6期	2012/6期	前期比	
売 上 高	7,489	8,050	7.5%	14,465	16,130	11.5%	
営 業 利 益	400	250	▲37.5%	790	650	▲17.8%	
経 常 利 益	389	240	▲38.4%	779	640	▲17.9%	
当 期 純 利 益	256	100	▲61.0%	314	300	▲4.6%	

【個 別】	第2四半期			通 期			(単位:百万円)
	2011/6期	2012/6期	前期比	2011/6期	2012/6期	前期比	
売 上 高	4,185	4,210	0.6%	8,519	8,760	2.8%	
営 業 利 益	221	60	▲72.9%	513	340	▲33.8%	
経 常 利 益	210	60	▲71.5%	500	330	▲34.0%	
当 期 純 利 益	194	30	▲84.5%	218	190	▲13.0%	

西梅田サイトの稼働率向上、EC・TC事業の拡大により増収となるが、販売単価の下落、電気代の上昇、およびBBFを含むブロードバンドタワーグループを次のステージへ上げるための先行投資を積極的に行うことで減益を見込む。



配当予想

2011年6月期 : 500円 配当性向 14.6%

2012年6月期（予想） : 500円 配当性向 14.4%

通期業績および財政状態、その他の状況を勘案した上で、内部留保の充実も図りつつ、**1株当たり500円**の配当を予定。



ブロードバンドタワーグループ戦略

BB Tower

- ①海外展開
- ②戦略的提携によるサービス展開および地域展開
- ③BBFとのシナジー強化

BBF

- ①EC・TV事業は引き続き拡大
- ②日本国内のみならず、中国を中心としたアジアへの展開を加速
- ③EC・TV事業に次ぐ新事業の創出

**新経営陣により新たなビジネスの創出に努め、
現状から脱却、次のステージへ**

当社 I R に関するお問い合わせ

社長室・人事総務

TEL : 03-5573-8172



<http://www.bbtower.co.jp/>

本資料は、2011年6月期の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は2011年6月末日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性・完全性を保証しまたは約束するものではなく、また今後予告なしに変更されることがあります。